

あの頃の津山

大正末頃の津山駅

写真提供・江見写真館



大正12年(1923)に開業した津山駅の駅舎を写したもので、同じ写真が、大正末頃に発行された津山町の写真帳にも掲載されています。駅舎は、開業間もなく焼失し、早々に再建されたため、この駅舎が当初の建物かどうかは、分かりません。

津山駅は、作備線(現在のJ R姫新線・津山駅～新見駅)と私鉄・中国鉄道(現在のJ R津山線・岡山駅～津山駅)を結ぶ駅として造られました。

当時の駅舎は、屋根の上に大きな窓が付き、漆喰壁に梁がのぞく西洋木造建築の様式を採用した、モダンな外観をしていました。

写真手前から延びる線路は、貨物列車専用の線路で、奥に貨車の姿も見えます。そして、客車が停車するプラットホーム(現在の1・2番ホーム)と駅舎を結ぶ陸橋や地下通路はまだ無く、乗客は、線路を直接横切る連絡通路を通じて、ホームへ渡っていたようです。

津山駅は、昭和7年(1932)の因美線(津山駅～智頭駅)、昭和11年(1936)の姫津線(現在のJ R姫新線・津山駅～姫路駅)の開通により、県北の交通と物流の要衝として、その役割を果たしていきます。

産業や経済が発展への軌道に乗り始めた津山を象徴するこの駅舎は、その装いを幾度か替え、今も日々、乗降客を見送り、出迎えています。

現在のJ R津山駅



このコーナーに掲載する懐かしい津山の写真を募集しています

閩津山郷土博物館

☎ 22・4567

つやま編集室

最近1年間で、珈琲を飲むようになった。珈琲のことを調べてみよう。ふむふむ。1日3杯程度までが適量で、脂肪肝の発生を抑制!? 脳卒中の発生率の低下!? シミを予防する効果!? 軽度には糖尿病を予防!? すごいな。...あ、糖尿病に限っては、砂糖入りで飲んでいから意味ないか。()

1歳6ヶ月になる娘が、朝寝坊なわたしを起してくるようになりまして。後5分でもいいから寝させて〜と言いつつ、娘の成長に目を細める毎日です。子どもの成長というものは早いんですね。4月から編集室に仲間入りしました。負けずに成長したいと思えます。よろしくお願いします。(雨)

津山加茂郷フルマラソン全国大会で沿道から掛けられる声援「お帰りなさい」には、さまざまな意味があるそうです。完走間近な走者への応援や、また出会えたうれしさ、そして、完走後、無事に家路に着いてほしいと願う見送りの気持ちなど。改めて、心温まる優しい大会だなと感じました。(修)

今月の表紙

第54回津山市消防操法

訓練大会

4月13日

津山スポーツセンター

(勝部)

編集・発行 (毎月10日発行)

津山市総合企画部秘書広報室(市役所3階)〒708-8501 岡山県津山市山北520番地

☎ 0868-32-2029 ☎ 0868-32-2152 ✉ kouhou@city.tsuyama.okayama.jp

☆広報つやまはホームページで閲覧できます

<http://www.city.tsuyama.lg.jp/>



☆秘書広報室のフェイスブックはこちら
<http://www.facebook.com/city.tsuyama.kouhou>



広報つやまは、環境保護のため再生紙と大豆油インキを使用しています。読み終えた後はリサイクル(雑誌)にご協力ください